

脳神経外科専門医

研修マニュアル

(基幹施設名) プログラム

2011年4月

はじめに

脳神経外科とは脳、脊髄、末梢神経を含むすべての神経系およびそれらに関連する骨、筋肉、血管などの疾病の予防、診断、手術を含む総合的治療、リハビリテーションなどに積極的に関与する医療専門領域である。

脳神経外科専門医とは脳神経外科領域疾患の予防、診断、手術的および非手術的治療、救急医療、リハビリテーションにおいて脳科学を基盤とした総合的知識と経験に基づいて適切な判断と対応ができることを条件としている。

本研修カリキュラムは、このような脳神経外科専門医に要求される到達目標（知識・技術、症例経験）を示すものである。

症例経験目標

A. 疾患の管理経験

以下の疾患群について、入院患者の管理経験を主治医ないしは担当医（受け持ち医）として、少なくとも記載された症例数を実際に経験し指導医の指導監督を受ける。

- | | | |
|-------------------------------------|-----|-----|
| ① 脳腫瘍 | 30例 | |
| うち良性脳腫瘍の管理 | | 10例 |
| うち悪性脳腫瘍の放射線・化学療法を含めた管理 | | 10例 |
| ② 脳血管障害 | 40例 | |
| うち虚血性脳血管障害の保存的治療ないし術前術後管理（血管内治療を含む） | | 10例 |
| うち脳内出血患者の保存的治療ないし術前術後管理 | | 10例 |
| うちくも膜下出血患者の保存的治療ないし術前術後管理（血管内治療を含む） | | 10例 |
| ③ 外傷 | 20例 | |
| 頭部外傷患者の保存的治療ないし術前術後管理 | | 20例 |
| ④ 脊椎・脊髄 | 10例 | |
| 脊椎・脊髄・末梢神経疾患の検査、保存的治療ないし術前術後管理 | | 10例 |
| ⑤ 小児 | 5例 | |
| 15歳以下の小児脳神経外科疾患の検査、保存的治療ないし術前術後管理 | | 5例 |
| ⑥ 機能 | 5例 | |
| てんかん、不随運動、MVDなどの検査、保存的治療ないし術前術後管理 | | 5例 |
| ⑦ その他（上記疾患群患者との重複もありえる） | 10例 | |
| 終末期患者の管理 | | 5例 |
| リハビリ患者の管理 | | 5例 |

B. 基本的手術手技の経験

（A項目症例との重複は認める）

- | | |
|----------------------|------------------------------------|
| 穿頭術ないし脳室ドレナージ | 術者として10例 |
| シャント手術 | 術者として10例 |
| 開頭・閉頭手技 | 術者として10例、助手として30例 |
| 椎弓切除ないし形成手技 | 術者または助手として 3例 |
| 顕微鏡下手技（上記開閉頭と重複を認める） | 40例 |
| | うち術者として5例（必ずしも完遂を求めない） |
| | （クモ膜切開、腫瘍、血管の露出、血腫除去、ドリリング、吻合操作など） |

C. 個別の手術経験（A、B項目症例との重複は認める）

- | | |
|---------------------|--------------------|
| ① 術者または助手としての経験 | |
| 脳腫瘍手術 | 20例 |
| 脳動脈瘤・AVM手術 | 10例 |
| 脳内血腫除去術 | 5例（開頭、ステレオはどちらでも可） |
| バイパス・CEA | 5例 |
| 外傷性頭蓋内血腫除去術 | 5例（慢性硬膜下血腫を除く） |
| ② 術者、助手、または見学としての経験 | |
| 脊髄・脊椎・末梢神経手術 | 5例（*） |
| 15歳以下の小児手術 | 3例（*） |

MVDを除く機能系手術	3例（＊）
脳動脈瘤塞栓術	3例（＊）
ステント留置術	3例（＊）
内視鏡手術	3例（＊）

＊ 1回の学会認定講習会受講を1例経験として読み替えることも可能（2回まで可）であるが、実地に経験することが望ましい

以上の疾患管理経験、基本的手術手技経験、個々の手術経験を積み重ねること、並びに自己学習を通じて、研修項目を理解し身につける。